

令和6年度 武蔵村山市立学校 学校経営方針

学校名 武蔵村山市立第十小学校

校長名 今 井 一 馬

【教育目標】

- ◆ やる気いっぱい <自分で考える子>
- ◆ 笑顔いっぱい <自分も友達も大切にする子>
- ◆ 力いっぱい <じょうぶでたくましい子>

1 目指す特色ある学校像

『子供と大人がいつも寄り添い、共に学び、一人一人が成長を実感できる学校』

- (1) 児童一人一人が自信をもち、学びのエンジンを動かして伸びる喜びをつかむ。
- (2) 朗らかな気持ち（心）で、自分も他人も大切にする。
- (3) 体力向上の活動に自分からすすんで参加し、健康でたくましい体をつくる。

2 経営の具体策

○学びに向かう姿勢を育てる —《学びのエンジンを動かす》—

- ・1単位40分の生活時程を導入し、児童の学びを充実させ、集中して考える力を養う。
- ・自由進度や個別の学習への転換を図り、学習の楽しさを感じさせる。（一斉教授から脱却）
- ・課題解決型で形成的評価を重視した授業により、学習効果を高める。
- ・学習意欲を探究や「まちづくり学習」に結び付け、実社会に課題解決の幅を広げていく。

○自己肯定感を高める —《自分が好き みんなが好き》—いじめを許さない校風作り—

- ・道徳授業の充実や『全校道徳』の実施により心の教育を推進する。
- ・通年の『挨拶運動』や、日常の挨拶促進により、豊かな人間性を涵養する。
- ・キャリア教育に着想した授業を通し、自分の生き方につながる「気付き」を増やす。

○生涯教育の土台作り —《体を動かす楽しさを実感》—

- ・運動量を確保するなど体育授業を充実させ、逞しい体をつくる。
- ・長縄跳びの活動の定期的な実施および、学級で日常の取組を行う。

○社会性の基礎を培う —《やって 感じて 分かち合う》—

- ・好ましい人間関係育成のため、特別活動を充実させる。
- ・兄弟学年を単位とした遊び等、異学年交流活動を計画的に実施する。

○教育目標達成のための学校運営の推進 —《教職員の育成》—

- ・体罰に関する研修会を充実させ、体罰によらない教育的な指導を確実に進める。
- ・授業を時刻通りに始める意識を高め、授業時間を確実に確保する。

小中一貫教育推進に向けた方策

- ・「なめらかに、育ちをつなぐ幼保小中の連携」を視野に入れ、保育園や中学校の教員と情報交換を行う。（保育園運動会の参観、合同研修会を通して）
- ・様々な交流活動を通じて、年齢の違いに応じ、互いに理解し助け合って生きていくことの大切さを学ばせる。（五中校区サミット、挨拶運動、読み聞かせ活動、ボランティア活動）
- ・小中連携した合同研究を推進する。（合同研究授業、校内研究への相互参加、合同研修会）